

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT16	鉄道史	日米英3ヶ国の鉄道の歴史	宗像 俊輔	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	政治、社会、外交、労働、環境		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目	交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、鉄道システム論				
オフィスアワー	月曜日・火曜日・土曜日（要確認）				
教員への連絡方法	s.munakata@toko.hosho.ac.jp				
講義の目的	我々が普段利用する鉄道がどのように誕生し、いかにして陸上交通の覇者となりえたのか。なぜ一度衰退した鉄道が再び脚光を浴びつつあるのにも関わらず、完全な復権への道が遠いのか。本講義ではこのことを、イギリス、アメリカ、日本の鉄道史を概観し、3カ国の共通点や相違点から、問題の核心に迫る。				
到達目標	鉄道の歴史を理解し、近代以降の鉄道交通と社会の関係や、鉄道を中心とした交通体系が抱える様々な課題について、自らの意見を持つことができる。				
講義内容	本講義ではイギリス、アメリカ、日本の3カ国を事例とし、鉄道の誕生と発展を可能にした背景を、政治的、経済的、社会的背景から読み解く。また、鉄道が各国の文化や慣習にいかなる影響を与えたかについても紹介する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	導入	本講義の概要、鉄道史の意義、基本情報の整理		
	第2講	イギリス鉄道史①	「蒸気機関車」の登場		
	第3講	イギリス鉄道史②	公共交通機関としての「鉄道」への昇華		
	第4講	アメリカ鉄道史①	19世紀アメリカの国内政策と鉄道敷設		
	第5講	アメリカ鉄道史②	アメリカの領土的拡大が促した「大陸横断鉄道」		
	第6講	アメリカ鉄道史③	「鉄道王」たちの横暴と連邦政府の規制強化		
	第7講	日本鉄道史①	新橋一横浜間の開業を可能にした明治期日本の鉄道への期待		
	第8講	日本鉄道史②	「鉄道熱」の時代から鉄道国有法制定へ		
	第9講	イギリス鉄道史③	「ビッグフォー」への集約と近代化		
	第10講	日米英鉄道史①	労働環境改善への終わりなき闘い		
	第11講	日米英鉄道史②	女性職員、女性利用者に対する差別		
	第12講	日米英鉄道史③	植民地経営の中核に位置付けられた鉄道		
	第13講	日米英鉄道史④	国有化の異なるアプローチとその功罪		
	第14講	日米英鉄道史⑤	民営化がもたらしたもの		
第15講	総括	「交通正義」という新たなトレンド			
指導方法	パワーポイントや映像資料を用いて、講義を展開する。毎回の講義ではリアクションペーパーの記入と提出を求めるとともに、理解度確認テストも実施しながら、内容の定着を図る。				
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	平常点（リアクションペーパー、態度など）・・・20%、各回の理解度確認テスト・・・30%、本試験（筆記試験）・・・50%				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	毎回の講義の冒頭でリアクションペーパーに対する返答をし、試験時には解答とその解説をする。				
テキスト	必要な資料は、講義内容に合わせて配布する。				
参考文献	代表的なものとして、湯沢威他『近代ヨーロッパの探求⑭ 鉄道』ミネルヴァ書房、2012年。必要に応じて、講義時に紹介する。				
実務家教員による授業		教員 経歴			
特記事項					